

# 「予防・健康施策の推進に向けて」

東京大学 政策ビジョン研究センター

古井 祐司

# 1 予防・健康施策における「見える化」の有用性

- (a) 課題が構造化される  
(b) 人・組織の施策感度があがる } 実効性が高まる

[例;協会けんぽ]

(a) 課題が構造化される

「健診実施率の47都道府県支部相互の格差」

- 受診者が少ない
- 健診データの提出が少ない

10倍以上の格差(従業員規模による課題の構造化)

(b) 人・組織の施策感度があがる

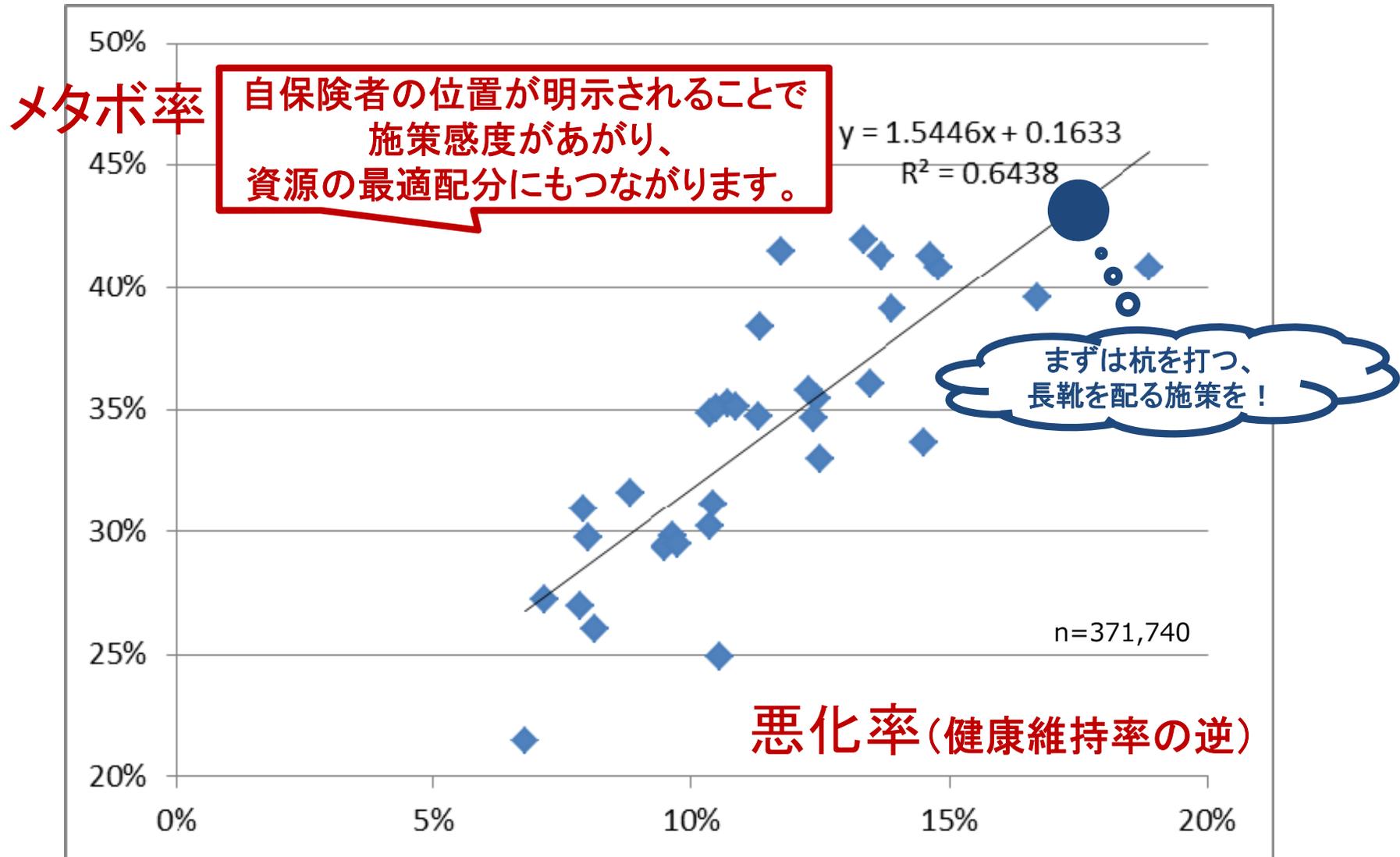
「保険料率の47都道府県支部相互の格差」

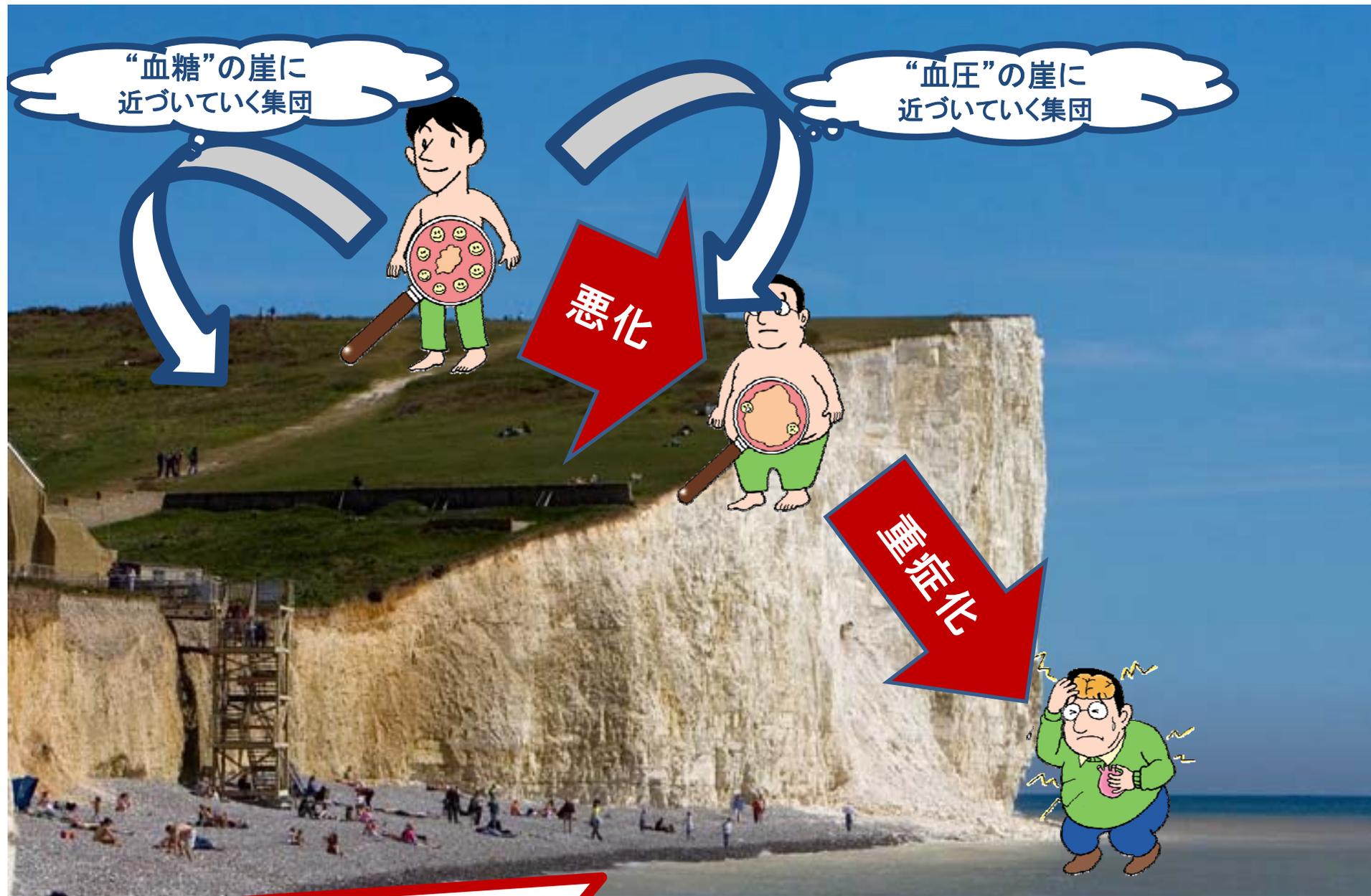
- 中小企業誘致など都道府県庁/産業界へのインパクト
- データヘルスの実施、その成果(医療費・発症率・健康維持率等)

KPIのモニタリングにより  
自律的に運営される

# 保険者相互の格差 (KPIのモニタリング)

悪化率が高い保険者ほど健康状況が悪い(メタボ率が高い)





悪化率は集団の健康状況を反映しており、悪化の構造を捉えることで施策判断につながる。  
⇒今後、KPIの初期値の把握と、「見える化」と具体的施策メニューのセットが重要

## 2 保険者機能の活用

医療費をマネジ / 国民を網羅 / データを蓄積

But...

◆ ひと; 母体企業による配員判断

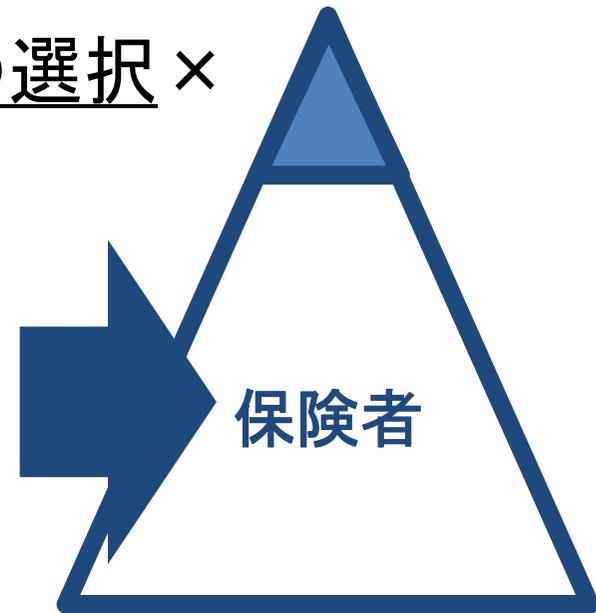
\* 裁量がない組織には投資(配員)しない

結果として...

◆ もの; 効果的なソリューションの選択 ×

◆ かね; 資源の最適配分 ×

ナビゲーションを含めた着実な  
KPIのモニタリングが必要



# 医療費をマネジする保険者機能の活用(例;協会けんぽ)

医療資源の適正な供給(医療機関)  
 - 地域医療ビジョンの策定・遂行

## 医療費のマネジメント

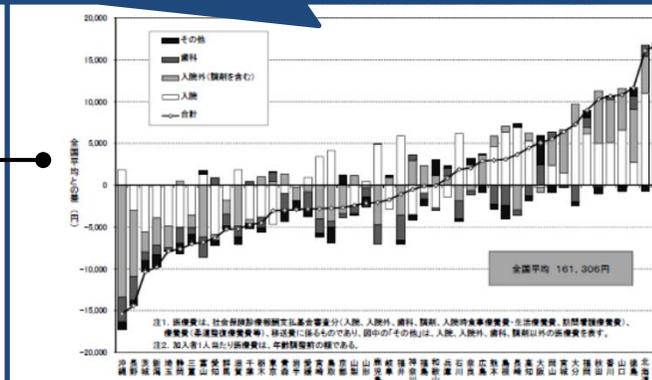
### 適正な受診(患者)

- 重複受診等の防止
- ジェネリック利用の促進
- 必要な受診(服薬コンプライアンス)

### 病気・コストの発生防止(加入者)

- 保健事業の基盤
  - ・健診データに基づく意識づけ
  - ・職場環境の整備
- 個別事業
  - ・保健指導(重症化予防)によるリスク改善
  - ・その他事業

## 支部相互の健康格差の見える化(縮小)



## 社会保障KPI

- Outcome** 保険者相互の健康格差の見える化(縮小)
  - 健康維持率, 重症疾患の発症率, 服薬管理率
- Output** 集団への網掛け、リスク者への働きかけ
  - 健診実施率, 保健指導率, ジェネリック利用率
- Process** 事業所との協働
  - 健康宣言事業所数(都道府県・商工団体との連携)
- Structure** 加入者への意識づけツールの適用
  - 健診データを起点としたICT等ツール導入・普及